

# 加藤定彦教授 自筆略譜及び主要研究業績

## 略 譜

- 一九四七年二月、名古屋市昭和区に、父加藤徳正、母久枝の次男として生まれる。
- 一九五九年三月、名古屋市立白金小学校を卒業。
- 一九六二年三月、名古屋市立円上中学校を卒業。
- 一九六五年三月、名古屋市立向陽高等学校を卒業。在学中、俳句に親しみ、鈴木半風子主宰『陽炎』（岡崎市）ついで橋本鶏二主宰『年輪』（名古屋市）に所属、投句。
- 一九六五年四月、早稲田大学第一文学部文学科国文学専修に入学。父の勤務先の縁故でご紹介を頂き、中村俊定先生のご指導のもと、芭蕉の研究を志す。実作は早大俳句研究会に所属したものの、学園紛争のあおりで休部状態となり、中絶。
- 一九七〇年三月、二度の学園紛争で必修の体育実技1単位が不足、五年掛かって卒業。
- 一九七〇年四月、中村俊定先生の移籍にともない、二松学舎大学大学院文学研究科国文学専攻修士課程に入学。前年五月、父を亡くし、厳しい経済情況下、工学院大学図書館嘱託（一九七四年三月）として夜間勤務、学業との両立が可能となる。
- 一九七二年三月、同 修士課程を修了。ただし、翌年まで在籍。

- 一九七四年四月、国文学研究資料館文献資料部助手となり、第三室に配属。
- 一九七七年四月、立教大学一般教育部人文・社会科学科専任講師となる。
- 一九八〇年四月、同 助教授となる。
- 一九八一年三月、外村展子と結婚、茨城県取手市の利根川畔に新居を構える。
- 一九八二年六月、財団法人日本古典文学会賞を受賞。
- 同 一二月、早稲田大学国文学会において窪田空穂賞を受賞。
- 一九九〇年四月、立教大学一般教育部人文・社会科学科教授となる。
- 一九九二年四月、同 主任となる（～翌年三月）。
- 一九九五年四月、同 一般教育部の解体にともなうて文学部日本文学科に移籍。
- 一九九七年四月 同 学生登録団体逍遙会部長となる（～二〇一二年三月）。
- 一九九八年四月、同 文学部日本文学科長となる（～二〇〇〇年三月）。
- 一九九八年一〇月、上野市・芭蕉翁顕彰会主催の芭蕉祭で文部大臣奨励賞を受賞（対象著作、『俳諧の近世史』）。
- 二〇〇二年四月、立教大学文学研究科日本文学専攻博士課程前期課程兼後期課程主任となる（～二〇〇三年三月）。
- 二〇〇三年四月、俳文学会事務局を引き受ける（～二〇〇六年三月）。
- 二〇〇六年四月、立教大学文学部日本文学科が同学部文学科日本文学専修と改組される。
- 二〇〇九年一〇月、伊賀市・芭蕉翁顕彰会主催の芭蕉祭で文部科学大臣賞を受賞（対象著作、外村展子と共編『関東俳諧叢書』全三二巻）。

二〇一一年三月一日、早稲田大学中央図書館で閲覧中、東日本大震災に遭遇、帰宅困難となり、立教大学文学部の研究室で一夜を明かす。翌日午後、JRが復旧、漸く取手に帰宅。

同 三月八日、福島第一原発がメルトダウン（？）、放射能汚染の恐れが高まり、常磐線の復旧を俟って名古屋に避難。三泊して帰宅した夜、小雨が降り、取手市はホットスポット化。

同 三月二三日、同 原発事故の収束見込みが立たず余震が頻発、都内練馬区の義父宅に仮寓（翌年四月）。

同 五月六日、東日本大震災のため、一ヶ月遅れで大学の授業開始。異様な最後の一年となる。

二〇一二年三月、立教大学を定年退職。

二〇一二年四月、愛知県春日井市に転居。

二〇一二年七月、立教大学名誉教授となる。

その他、明治大学・早稲田大学・法政大学・学習院大学・二松学舎大学・お茶の水女子大学・東京大学・国文学研究資料館の非常勤講師・客員教授として出講。

## 主要研究業績

### 【編著書】

『俳諧の近世史』若草書房、一九九八年（注）以下に掲出する題目の右肩に「\*」を付した論稿を収録

『風呂で読む一茶』世界思想社、一九九六年

『俳諧 絵文匣』注解抄』（編著）勉誠出版、二〇一二年

\*

『近世文学資料類従・古俳諧編』全四八巻（影印解題・共著）勉誠社、一九七二年～一九七七年　▽①犬子集、  
⑥牛飼、②⑧宗因千句・宗因五百句ほか、③⑩誹諧三ヶ津、③⑧非無漏毛理・巨保理射魔、④⑦続無名抄・常陸帯・反  
故集を担当

『近世俳諧資料集成』全五巻（中村俊定編、雲英末雄・田中善信と校訂・解題）講談社、一九七六年

『初印本毛吹草 影印・索引篇』二巻（影印・索引）ゆまに書房、一九七八・八〇年

『俳題正名』（影印解題・索引）勉誠社文庫100、一九八二年

『酒田市立光丘文庫俳書解題 付、庄内俳壇史藁草』（国文学研究資料館共同研究報告2、国文学研究資料館編、尾形

仍ほかと共著）明治書院、一九八三年

『蕉門俳書集』全六巻（影印解題・鈴木勝忠ほかと共編）勉誠社、一九八三年～一九八四年

『大東急記念文庫桜川』（影印解説・索引）大東急記念文庫、一九八五年

『島田筑波集』上下二巻（編集・校注）青裳堂書店、一九八六年

『俚諺大成』（外村展子と共編、解説）青裳堂書店、一九八九年

『一茶の俳風』（前田利治著、編集・注）富山房、一九九〇年

『新日本古典文学大系69 初期俳諧集』（森川昭ほかと共著、校注・解説）岩波書店、一九九一年

『早稲田大学蔵資料影印叢書23 貞門談林俳諧集』（雲英末雄ほかと共著、影印解題）早稲田大学出版部、一九八

九年

『天明俳書集6 江戸篇』（影印解題）臨川書店、一九九一年

『芭蕉全図譜 図版編・解説編』二卷（今栄蔵ほかと共編、解説）岩波書店、一九九三年

『関東俳諧叢書』全三二卷（外村展子と共編、校訂・解説・索引）青裳堂書店、一九九三年～二〇〇九年

『半場里丸俳諧資料集』（関東俳諧叢書編外①）、校訂・解説・索引）青裳堂書店、一九九五年

『早稲田大学蔵資料影印叢書41 享保宝曆俳諧集』（雲英末雄ほかと共著、影印解題）早稲田大学出版部、一九九五年

『夷隅の俳諧』（夷隅町史資料集別巻、編集、校訂・解説）千葉県夷隅町、一九九七年

『俳諧点印譜』（影印解説・索引）青裳堂書店、一九九八年

『古典文学翻刻集成・俳文学篇』全七巻（復刻、監修）ゆまに書房、一九九八年・一九九九年

『俳諧人物便覧』（影印解説）ゆまに書房、一九九九年

『新編日本古典文学大至集61 連歌集・俳諧集』（金子金治郎ほかと共訳注）小学館、二〇〇一年

『西山宗因全集3』（塩崎俊彦と共編、校訂）八木書店、二〇〇四年

\*

『近世文学論叢』（早稲田大学俳諧研究会編、共著）桜楓社、一九七〇年 ▽「談林俳諧における『とぶ』の意味」を執筆

『芭蕉物語』（乾裕幸・白石悌三編、共著）有斐閣、一九七七年 ▽「8宗匠立机」「9パトロン杉風」を執筆

『近世文芸論叢』（暉峻康隆編、共著）中央公論社、一九七八年 ▽「俳諧師西鶴の実像―その作家的出発」を執筆  
筆 ↓ 『日本文学研究大成 西鶴』（国書刊行会、一九八九年）に再録

『俳文学論集』（宮本三郎編、共著）笠間書院、一九八一年 ▽「草創期の季語をめぐる問題―『毛吹草』と『御

傘』と―」を執筆

『近世文学論攷』（松尾靖秋編、共著）桜楓社、一九八五年 ▽「道田口伝『猿蓑集序註解』―解説・翻刻―」を執筆

『資料』二世市川団十郎（共編）、立教大学近世文学研究会編、和泉書院、一九八八年 ▽『栢庭狂句集』を校訂

『新日本古典文学大系70 芭蕉七部集』（共著、解説）岩波書店、一九九〇年 ▽「七部集の書誌」を執筆

『江戸文学研究』（神保五弥編、共著）新典社、一九九三年 ▽「若き日の恋川春町―俳と画と―」を執筆

『日本の近世12 文学と美術の成熟』（中野三敏編、共著）中央公論社、一九九三年 ▽「8都会派俳諧の展開―蕉風俳諧とのせめぎあい―」を執筆

『利根川・荒川流域の生活と文化』（利根川文化研究会編、共著）国書刊行会、一九九五年 ▽「利根川下流域の俳諧」を執筆

『商売繁昌 江戸文学と稼業』（国文学研究資料館編、古典講演シリーズ3、共著）臨川書店、一九九九年 ▽「俳諧師の経済生活」を執筆

『近世文学研究の新展開―俳諧と小説―』（堀切実編、共著）ぺりかん社、二〇〇四年 ▽「白雄評四季句合と北毛俳壇―左部家旧蔵資料の語るもの（その2）―」を執筆

『図説「見立」と「やつし」 日本文化の表現技法』（人間文化研究機構国文学研究資料館編、共著）八木書店、二〇〇八年 ▽「やつしと俳諧」「やつしと庭園文化」を執筆

『別冊国文学 日本古典文学研究必携』（市古貞次編、共著）学燈社、一九七九年秋季号 ▽「貞門」を担当

『講座元禄の文学3 元禄文学の開花Ⅱ 芭蕉と元禄の俳諧』（雲英末雄ほか編、共著）勉誠社、一九七二年 ▽「芭\*

蕉発句の特質―詩精神の変遷を中心に―」を執筆

〔岩波 講座〕日本文学史7 変革期の文学Ⅱ（日野龍夫ほか編、共著）岩波書店、一九九六年 ▽「俳諧の誕生」を執筆

〔俳句教養講座3〕俳句の広がり（片山由美子ほか編、共著）角川学芸出版、二〇〇九年 ▽『見立て』『やつし』という方法」を執筆

〔下総町史 通史 近現代編〕（共著）千葉県下総町、一九九四年 ▽「下総町と俳諧」を執筆

〔夷隅町史 通史編〕（共著）千葉県夷隅町、二〇〇四年 ▽「夷隅の俳諧」を執筆

\*

〔没後三百年記念 芭蕉展〕（実行委員、図録解説、石川真弘ほかと共著）日本経済新聞社、一九九三年

〔日本近世文学会創立五〇周年記念／日本を見つけた。―江戸時代の文華―展〕（図録編集委員、鈴木俊幸ほかと共著）

日本近世文学会、二〇〇二年

\*

〔俳文学大辞典〕（編集委員、共著）角川書店、一九九五年 ▽項目執筆

〔日本古典文学大辞典〕（市古貞次ほか監修、共著）岩波書店、一九八三―八五年 ▽俳諧関係項目を執筆

〔利根川荒川事典〕（編集委員、共著）国書刊行会、二〇〇四年 ▽俳諧関係項目を執筆

〔成田の地名と歴史 大字別地域の事典〕（大字別地域の事典編集委員会編、共著）成田市、二〇一一年 ▽「地域の

事典」（近世）の俳諧関係項目を執筆

【雑誌論文など】（主題・時代別に分類・配列）

「俳諧大衆化の二方向―形式の縮小化と数量の拡大化―」（『大衆文化』三、江戸川乱歩記念大衆文化研究センター、二〇一〇年四月）

「布教システムとしての俳書出版―寺院版から俳諧書林版へ―」（『企画展 芭蕉と江戸時代』山寺芭蕉記念館、二〇一〇年）

\*

「桜井基佐の書簡五点」（『連歌俳諧研究』五六、一九七九年一月）

「前期俳諧の展開―形式と内容と―」（『連歌俳諧研究』四七、一九七四年八月）

「初期俳諧の言葉をめぐる（上・下）」（『二松学舎大学人文論叢』三・四、一九七一年六月・一九七二年五月）

「初印本『毛吹草』考」（『立教大学研究報告（人文科学）』四五、一九八六年二月）

「『毛吹草』ノート（一～四）」（『近世文芸研究と評論』二四・二五・二八・三〇、一九八三年六月～一九八六年六月）

「貞室手沢本『連詞指合大全』の出現（上・下）」（『日本古典文学館館報』九三・九四、一九八二年八・一二月）

「虱の悔焉」（『書誌学月報』五、一九八〇年七月）

「古俳諧資料『半井卜養狂歌集其他』の解題と翻刻」（『近世文芸資料と考証』九、一九七四年二月）

「近世俳諧の成立（上・下）」（『近世文芸研究と評論』一〇・一一、一九七六年五・一〇月）

「『増山井』をめぐる問題―出典を中心に―」（『国語と国文学』一九八一年一月）

「小西似春の研究」（『文芸と批評』一九七〇年五月）

〔宗因の方法―無心所着体の確立をめぐる―〕（『近世文芸』二〇、一九七二年四月）

〔内藤風虎伝拾遺―父子の確執と歌歴を中心に―〕（『立教大学日本文学』八五、二〇〇一年一月）

\*

〔芭蕉・曾良・等躬「三子三筆」卷子の出現〕（倉島利仁と共著、『連歌俳諧研究』一〇四、二〇〇八年三月）

〔俳諧七部集の校訂と初版本―北大本『あら野』の紹介をかねて―〕（『書誌学月報』二一、一九八五年九月）

〔ヤツシとしての俳諧―蕉風を中心に―〕（『国語と国文学』二〇〇二年二月）↓『図説「見立」と「やつし」

日本文化の表現技法』（「やつしと俳諧」と改題）及び『日本文学研究大成 芭蕉』（国書刊行会、二〇〇四年）に再録

〔露沾のサロン形成と宝生沾圃―能楽の流行と江戸蕉門―〕（『かがみ』四〇、大東急記念文庫、二〇〇九年一月）

〔『芭蕉通夜舟』論―歌仙形式による一代記―〕（『国文学解釈と鑑賞』別冊「井上ひさしの宇宙」、一九九九年一

二月）

\*

〔江戸座の絵俳書について―露月を中心に―〕（『絵入俳書とその画家たち』柿衛文庫、一九九二年）

〔『誦絵文匣』注解（二〜九）〕（『誦絵書を読む会著、『立教大学大学院／日本文学論叢』二〜四・六〜一一、二〇

〇二年九月〜二〇二一年八月）↓『誦絵文匣』注解抄』（一〜七）までを改稿収録

〔来川門の西鳥・寸長・半路について〕（『近世文芸研究と評論』六、一九七四年五月）

〔紀逸の家系〕（『連歌俳諧研究』五四、一九七八年一月）

「俳諧史から見た慶紀逸」(『慶紀逸250年記念講演句会』、二〇一二年六月)

「狩野探幽・常信筆『画図百花鳥』考―縮写模刻版の流布とその影響―」(『立教大学言語人文紀要 ことばと人間』二六、二〇〇〇年十二月)

\*

「翻刻『鳥酔居士句集』」(『連歌俳諧研究』七九、一九九〇年八月)(注)「鳥酔資料叢稿(二)」に当たる

「鳥酔資料叢稿―白井家襲藏資料の紹介―」(『連歌俳諧研究』八二、一九九三年三月)(注)「同右(二)」に当たる

「鳥酔資料叢稿(三)―白井家家譜の紹介―」(『近世文芸研究と評論』四四、一九九三年六月)

「義仲寺蔵板の『芭蕉翁終焉記』」(『義仲寺』二五〇、一九九二年三月)(注)「鳥酔資料叢稿(四)」に当たる

「雪中庵蓼太年譜稿(上・中・下)」(『連歌俳諧研究』六六―六八、一九八四年一月―一九八五年一月、中村俊定と共著)

「大伴大江丸の研究」(『国文学研究資料館紀要』二、一九七六年三月)↓上田高嶺編『大江丸旧国』(一九九四年)に再録

「岱路稿本『うら枯の月』の紹介―天明六年の春秋庵再訪―」(『連歌俳諧研究』一一三、二〇〇七年九月)

「戯作者振鷺亭の俳諧」(『近世文芸研究と評論』五二、一九九四年六月)

\*

「下総蕪里の俳人玉斧―両総俳壇の展開とともに―(上・中・下)」(『立教大学日本文学』六一・六二・六七、一九八八年二月・一九八九年七月・一九九一年二月)

「白雄の上総行脚資料―玉斧旧蔵書から―」（『近世文芸研究と評論』三四、一九八八年六月）

「玉斧編『矢さしが浦』の紹介」（『立教大学研究報告（人文科学）』四八、一九八九年二月）（注）「矢さしが浦の俳諧（一）」に当たる

「矢さしが浦の俳諧―夜松関係資料の紹介―」（『近世文芸研究と評論』三七、一九八九年二月）（注）「矢さしが浦の俳諧（二）」に当たる

「矢さしが浦の俳諧（三）―『亀足集』の紹介―」（『近世文芸研究と評論』三九、一九九〇年二月）

「矢さしが浦の俳諧（四）―『亀足集』の俳人たち―」（『近世文芸研究と評論』四〇、一九九一年六月）

「矢さしが浦の俳諧―伊能忠敬をめぐる俳人たち―」（『千葉県の歴史』四一、一九九一年二月）

\*

「近江鏡村俳人寄松来簡抄（その1・2）」（『立教大学日本文学』七三・七四、一九九四年二月・一九九五年七月）

「俳諧『摺物』事情―文政期上方を中心に―」（『江戸文学』一六、ペリカン社、一九九六年一〇月）（注）「寄松来簡抄（その3）」に当たる

「宝暦五年春雄書簡の紹介―寄松来簡抄（その4）―」（『俳文学研究』二五、一九九六年三月）

\*

「江戸の俳諧」（『国文学解釈と鑑賞』至文堂、二〇〇三年二月）

「\*生成期の月並句合―江戸俳壇を中心に―」（『国語と国文学』、一九九四年五月）

「譚北編『年のみどり』（新出）の解題と翻刻―享保前期野総地方の雑俳―」（『立教大学日本文学』一〇五、二〇

一〇年一〇月)

「河内町の俳諧」（『郷土研究誌かわち』五、二〇〇〇年五月）

「関宿・境俳壇と箱島阿誰・浙江・文路」（『町史研究下総さかい』九、二〇〇四年三月）

「近世成田における俳諧事情」（『成田市史研究』三三、二〇〇九年三月）

「文政期の南房総俳壇―里丸編『杉間集』配本控への紹介―」（『千葉県の歴史』四六、一九九四年一〇月）↓『杉間集』配本控へは『平場里丸俳諧資料集』に収録

「小松島の俳人と化政期俳壇―藍商阿波屋の安房出店をめぐる―」（『連歌俳諧研究』一二〇、二〇一一年三月）

「旧跡兎塚と『花盗人』―利根川下流域の俳諧―」（『利根川文化研究』四、一九九二年一二月）

「利根川と文化―小林一茶を中心に―」（『国文学解釈と教材の研究』、二〇〇五年三月）

「松露庵一枚摺と北毛俳壇」（『江戸文学』二五、ぺりかん社、二〇〇二年六月）（注）「左部家旧蔵資料の語るも

の（その一）」に当たる

\*

「『ヤツシ』から見た庭園文化―作庭・花道・盆石を論じつつ「見立て」に及ぶ―」（『近世文芸の表現技法〈見立・やつし〉の総合研究プロジェクト報告書』一、国文学研究資料館、二〇〇五年三月）↓『図説「見立」と「やつし」日本文化の表現技法』に再録

「神話のヤツシとしての『義経記』『好色一代男』（『西鶴と浮世草子』創刊号、笠間書院、二〇〇六年六月）

「『奥の細道』に探る東国の歴史―「室の八島」を中心に―」（アジア遊学143『環境という視座／日本文学とエコクリティシズム』、勉誠出版、二〇一一年七月）

\*

「友甫宛俳人書簡の紹介（二）（三）——幕末期関東俳壇事情——」（稲葉有祐ほかと共著、『立教大学大学院／日本文学論叢』六・七・一一、二〇〇六・〇七・一一、一年八月）

「教導職をめぐる諸俳人の手紙——庄司唸風『花鳥日記』から——」（『連歌俳諧研究』八八、一九九五年三月）

「続教導職をめぐる諸俳人の手紙——庄司唸風『花鳥日記』から——」（『連歌俳諧研究』一〇〇、二〇〇二年二月）

「明治俳壇消息抄——庄司唸風『花鳥日記』（二）（十一）から——」（『立教大学日本文学』八七）一〇七、二〇〇一年

一二月）二〇一二年一月、『立教大学言語人文紀要——ことばと人間』三）一〇、二〇〇一年一月）二〇〇三年六月、八年二月、『近世文芸研究と評論』六一・六三・六四、二〇〇一年一月）二〇〇三年六月）

「飄亭、不折、子規と三陸大津波——「海嘯」十四句をめぐる——」（『大衆文化』六、江戸川乱歩記念大衆文化研究センター、二〇一一年九月）

\*

「俚諺資料『やぶにまぐわ』（上・中・下）——翻刻・索引・解説——」（『立教大学日本文学』四七）四九、一九八一年一月）一九八二年二月）

「俚諺資料『やぶにまぐわ』——異同・用例一覧——」（『立教大学研究報告（人文科学）』四二、一九八三年一月）

「『前編諺鏡』の紹介（上・下）——翻刻・解説——」（『立教大学日本文学』五四・五五、一九八五年七月・十二月）

【書評】

「乾裕幸著『俳諧師西鶴』」（『文学』一九八〇年三月）

「赤羽学編著『校注俳諧御傘索引篇』を手にして」（『岡大國文論稿』一一、一九八四年三月）

- 「雲英末雄著『俳書の話』によせて」（『季刊江戸文学』三、一九九〇年六月）
- 「矢羽勝幸著『俳人白雄 人と作品』」（『信濃毎日新聞』、一九九〇年一〇月二二日朝刊）
- 「矢羽勝幸著『一茶大事典』」（『信濃毎日新聞』、一九九三年八月五日朝刊）
- 「赤羽学編『新続犬筑波集』（岡山大学国文学資料叢書四）」（『岡大國文論稿』二四、一九九六年三月）
- 「復本一郎著『俳句源流考―俳句発句論の試み―』」（『国文学解釈と鑑賞』、二〇〇一年一〇月）
- 「岡本勝著『近世三重の俳人たち』」（『国文学解釈と鑑賞』、二〇〇一年一二月）
- 「坪内稔典著『上島鬼貫―ネンテン流（鬼貫論）―』」（『俳句』、二〇〇二年一月）
- 「白石悌三著『江戸俳諧史論考』」（『文学』三・四、二〇〇二年三月）
- 「乾裕幸著『俳句の本質』」（『関西大学国文学会 国文学』八五、二〇〇二年一二月）
- 「今栄蔵著『初期俳諧から芭蕉時代へ』」（『国語と国文学』、二〇〇四年二月）
- 「矢羽勝幸・二村博編著『俳人塩田冥々 人と作品』」（『週刊読書人』、二〇〇四年三月五日）
- 「矢羽勝幸編<sup>増補改訂</sup>『加舎白雄全集』」（『図書新聞』、二〇〇八年三月二二日）
- 「尾形仿著『尾形仿国文学論集』」（『国語と国文学』、二〇一一年一二月）

【随筆】

- 「芭蕉涅槃図―三百回忌に寄せて―」（『海門』、一九九三年一〇月）
- 「開化期のある風交―増山守正と庄司唵風と―」（『海門』、一九九八年五月）
- 「『秋のもんかきや』余話」（『岳』、二〇〇〇年五月）
- 「磯出大祭礼見物の記」（『芭蕉伊賀』、二〇〇三年六月）

【講演・講座】

「NHK高校講座 古典への招待「古典総合」」日本放送出版協会、一九九一年四月、▽「俳諧」担当、一月六日・

同一三日・同二〇日、教育テレビ放送

「俳諧師の経済生活」（於国文学研究資料館、一九九七年六月二七日）↓『商売繁昌 江戸文学と稼業』に収録

「教室の芭蕉」（於三重県上野市芭蕉祭、一九九七年一月二一日）

「河内町の俳諧」（於茨城県河内町歴史講演会、一九九九年一月二四日）↓「河内町の俳諧」（『郷土研究誌かわち』五）に収録

「房総漂泊の日々」（於長野県信濃町柏原 一茶記念館講座、二〇〇三年一月八日）

「近世安房の俳諧事情」（於千葉県館山市立博物館、二〇〇四年二月二二日）

「大江丸に惹かれて」（於大阪市天王寺区円通寺 大江丸二百年祭、二〇〇五年三月一九日）

「ヤツシの源流を探る」（於国文学研究資料館シンポジウム「表現としての『やつし』と『みたて』」、二〇〇六年五月一七日）

「俳諧史から見た慶紀逸」（於慶紀逸二五〇年記念講演句会、二〇一二年五月八日）↓『慶紀逸250年』に収録

「近世成田における俳諧事情」（於成田市史講座、二〇〇七年一月一〇日）↓「近世成田における俳諧事情」（『成田市史研究』三三三）に収録

「風流大名内藤風虎の文事」（於明治大学博物館公開講座、寺子屋講座「内藤家文書の世界を探访する」、二〇〇九年三月九日）「内藤露沾と関東俳壇」（同 右、二〇〇九年三月二三日）